令和３年度　山口大学教育学部附属光学園（光中学校）学校評価書　（校長　森本　忠寿）

1　学校教育目標

【教育目標】
広い視野をもち，未来の社会をたくましく切り拓く人間の育成
【目指す子ども像】
本質を見極めようとする子（ねばり強く考える子）　多様性を尊重し，協働できる子（自他を大切にできる子）　社会との絆を深める子（地域に愛される子）

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

⑴ 学力の向上
小中９年間を貫く「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりが進められた。本年度は，GIGAスクール構想の実現に向けた１人１台端末の活用を基盤にした授業づくりがすべての学校現場において求められており，主体的に取り組める家庭学習の改善と併せ，新しい学びの在り方を具現化することが課題である。

⑵ 心の教育の推進
子どもの自己肯定感は概ね高く維持されていたが，互いの人権に関わるトラブルも散見された。多様性の尊重と協働の心の醸成を一層進めていくことと，ネットモラル等の一人一台端末の利用に対応した新たな取組の創出が課題である。

⑶ 健康・安全と体力の向上
インターネットの利用等にかかわる生活リズムの乱れや体調不良について，家庭への啓発の強化が不十分であった。学校外のリソースを活用した新たな取組を通して，家庭と連携した心身の健康づくりを一層推進していくことが課題である。

⑷ 学部・保護者・地域との連携の強化
学部との連携については，オンラインの活用等により，小中ともに新たな教育活動が進められた。GIGAスクール構想の下で，一層の充実を図っていくことが課題である。
メール配信・web による保護者への情報発信に努めてきた。デジタルデータによる双方向性のある家庭との連携のあり方を構築していくことが課題である。
地域連携では，教職員との熟議を通したプロジェクト実現の可能性が生まれた。学校運営協議会・教職員・保護者の協働によるプロジェクトと，学校運営への子どもの参画についての具体的な取組の実現が課題である。

⑸ 業務改善の推進
時間外在校時間の縮減については一定の成果が見られた。GIGAスクール構想の下での業務のスマート化の一層の推進が課題である。

3　本年度重点を置いてめざす成果・特色，取り組むべき課題

○ 子ども自身がもつ問いと，連続性･発展性のある学びを具現化する小中一貫教育の推進。【知性】
○ 地域とのつながりの中で，自己肯定感を高め，所属感が実感できる豊かな心の醸成。【自己】
○ 目指す子ども像の実現に向け，地域とともに学校課題の改善に邁進できる開かれた学校づくり。【共生】

4　自己評価

評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組（具体的方策）	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析
学力の向上	思考力・判断力・表現力を確かなものにする学びの推進（情報端末活用）	○ 主体的・対話的で深い学びについての実践の充実と情報発信 ○ 子どもに育む資質・能力に特化したカリキュラムの深化充実 ○ 個の特性に応じた指導改善	子ども・保護者アンケート（授業関連）の肯定的な回答 4（95%以上），3（90%以上），2（85%以上），1（85%未満）	3	＜生徒 95，保護者 91%＞ ・教師の授業改善や本学園の実践研究が生徒一人ひとりの学力向上につながるように努めていきたい。
	自ら学び続けることのできる家庭学習の在り方についての提案と実践（情報端末活用）	○ 各学年の課題に応じた家庭学習方法の実践と検証 ○ 子どもに育む資質・能力に応じた家庭学習方法の実践と検証	保護者アンケート（家庭学習・学力）の肯定的回答 4（80%以上），3（75%以上），2（70%以上），1（70%未満）	2	＜保護者 74%＞ ・後期は前期（69%）より上昇。自主学習や定期考査，入試に向けた計画的な家庭学習について家庭と連携して取り組みたい。
心の教育の推進	自他を大切にできる受容的な集団の醸成	○ 道徳科の授業づくりを通した，子どもの変容の見取りと評価 ○ 学校行事への主体的な取組を通した集団づくり	子ども・保護者・教職員アンケート（道徳科）の肯定的回答 4（95%以上），3（90%以上），2（85%以上），1（85%未満）	4	＜生徒 95,保護者 96,教職員 94%＞ ・道徳科の授業がよりよい生き方につながっていると捉えている。
	集団意識を基盤とし，自治と誇りを基軸としたマナーアップ	○ 登下校中や公共の場での態度の価値付けを通した，望ましい集団づくり ○ 子どもの自治的な工夫・改善を通した主体的な取組の推進	子ども・保護者・教職員アンケート（規範）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	3	＜生徒 93,保護者 92,教職員 82%＞ ・PTAの登下校見守りボランティア等を通して、家庭と連携して規範意識等の自立に向けた態度を育みたい。
健康・安全と体力の向上	自らの生活の課題を意識し，工夫しようとする意欲・態度の育成	○ 本校の実態に即した，早寝・早起き・朝ご飯の啓発，食育指導，保健指導，ネット利用の指導を通した，健康的な生活習慣や態度の育成	子ども・保護者アンケート（生活）の肯定的回答 4（80%以上），3（75%以上），2（70%以上），1（70%未満）	3	＜生徒 87，保護者 69%＞ ・自己の健康管理やメディアコントロール等について，授業や生徒会活動，たより等を通して、望ましい生活習慣を大切にする態度を育みたい。
	安全に楽しく運動を楽しめる資質･能力の向上	○ 運動場面を捉えた具体的な安全指導の充実 ○ 体育科の授業や家庭生活での実践を通した柔軟性の向上	校内・校外での骨折 4（ 5 件以下），3（10 件以下），2（15 件以下），1（16 件以上）	3	＜今年度　骨折件数7件＞ ・校内4件、校外3件。コロナ禍による運動不足の影響が考えられる。準備運動や昼休みの外遊びなど安全な活動や丈夫な体づくりを促したい。
学部・保護者・地域との連携	学校と学部との連携を密にした教育研究の推進	○ 9年間を見通した定期的な情報提供及び教育実践研究サイクルの構築	教職員アンケート（学部連携）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	2	＜教職員 76%＞ ・後期は前期より約 30%上昇。オンラインによる研究協議会等での連携が進んでいる。今後も附属学校としての強みを生かしたい。
	学校と保護者，保護者と保護者のネットワークづくり	○ 学校webページを活用した各種情報発信の充実 ○ 非常変災等，学校の危機管理に関する共通理解と訓練の充実 ○ PTA，おやじの会への参加を通した保護者同士の絆づくり	保護者アンケート（PTA 等） 4（85%以上），3（80%以上），2（75%以上），1（75%未満）	1	＜保護者 72%＞ ・昨年度後期や今年度前期よりやや上昇。保護者の来校やPTA活動の機会の確保や，学校 web ページや各種たより等での情報発信に努めたい。
	附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくり	○ 学校運営協議会，子どもとの熟議を通したCSの充実 ○ 附属学校の特性を生かしたCS機能の強化	4（子どもが参画した地域との取組），3（子どもが参画した学校運営協議会との活動），2（学校運営協議会の提案による新たな取組），1（学校運営協議会での熟議）	1	・今年度も新型コロナの影響により計画の変更が相次いだ。学校運営協議会委員と教職員の交流を行うことはできた。
業務改善	業務の見直しと効率化を通した働き方の改善	○ 限られた時間内での子どもと向き合う時間の質の向上 ○ 小中の同僚性の向上，組織内ネットワークの強化による業務の効率化	時間外労働時間の平均 4（42 時間未満），3（47 時間未満），2（52 時間未満），1（52 時間以上）	1	＜時間外労働時間平均約 63 時間＞ ・教育の質を向上させるために小中連携や PTA の協力での業務改善を進める。

5　学校関係者評価

取組状況に関する意見・要望等	評価
・引き続きよりよい学びに向けて努力してほしい。学力を広い意味で捉え、豊かな学びを創ってほしい。	3
・学校から一律に出される課題については生徒（家庭）の状況等に柔軟に配慮することも必要なのではないか。	2
・たいへん望ましい状況である。礼儀正しく思いやりのある生徒が多いと思う。	4
・登下校の交通安全や交通マナーの定着に向けての指導を継続していくことが必要である。	2
・今後も家庭の理解と協力を得ながら望ましい生活習慣の定着に向けて努力してほしい。	3
・運動する機会を確保するとともに、柔軟性等の視点から体力の向上について捉えることもよい。	3
・大学と附属学校連携が双方にとって必要不可欠なものになるとよい。	2
・学校は感染防止対策の観点から保護者の参観をオンラインにするなど工夫している。	1
・感染状況にもよるが、来年度は子どもが参画した学校運営協議会との活動がスタートできるとよい。	1
・業務支援を行う方を雇うこともできるとよいのではないか。PTA の下校見守りにより会議の開始時刻を早めることができた。	1

6　学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）

＜取組の成果＞
・学校運営協議会が正式にスタートして3年目となった。コロナ禍にあっても，学校運営全般にわたってアドバイスを受けることができた。特に部会ごとに分かれて重点目標等を委員と教職員とで共有できたことは有意義であった。来年度以降も継続していきたい。
・ほとんどの生徒が道徳科の授業がよりよい生き方につながっていると実感しており，自他を大切にできる心が育まれ，学校生活が概ね落ち着いていると感じている。いっぽうで，長引くコロナ禍による運動不足等によるストレスの緩和が課題である。
・昨年度に引き続き，オンラインを活用しての学校と学部とが連携した教育活動を進めることができたのは大きな成果であった。来年度以降も継続していきたい。
・昨年度から始めたPTAの登下校見守りボランティアや図書整備ボランティアに，今年度も多くの保護者の協力を得ることができた。学校と保護者，保護者同士のネットワークづくりやコロナ禍における教師の業務負担の軽減に努めていきたい。
＜次年度への改善策＞
・学校運営協議会委員からのアドバイスや「熟議」を通して，本学園の目指す子ども像を実現するための具体的な取組について，子どもを参画させた上で前に進めていきたい。
・GIGAスクール構想の具現化とともに「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりを実践し、一人ひとりの学力向上に努めていきたい。
・感染防止対策を徹底した上で，教育活動を安全にかつ工夫して行うことで，一人ひとりの自立に向けた義務教育最後の3年間を有意義なものとしたい。
・研究校・実習校としての使命に加えて、新型コロナウイルス感染症対応の継続や、GIGAスクール構想の具現化に伴う教師の業務負担が増加している状態が続いている。小中一貫校だからこそできる業務改善や，業務の見直し等の自助努力を行うとともに，山口大学教育学部，PTA，おやじの会等に協力を求め，教師のライフワークバランスを大切にした上での教育活動の質の向上に努めていきたい。